

名所を歩く 魚まちの名所・旧跡

江之浦の弁天さん

江の浦の中ほどに東に突き出た半島があり、その先に岩と樹木の小島が浮かんでいる。赤い祠と鳥居がたち、人々から「弁天島」と呼ばれて親しまれている。島は船から見上げるかたちとなり、近づくと近づくにつれて大きなものに感じられる。何よりも、海からお参りができるように、階段が波打ち際まで下りてきているのが面白い。占くより、祠は海上鎮護の神・市杵島姫(いちきしまひめ)を祀り、長島漁民の信仰が



厚い。市杵島姫はスサノオの剣から生まれた女神で、厳島神社の祭神となっている。俗に弁財天とも呼ばれて、七福神のひとつとなっている。今日でも漁民は、新年や新船を建造したときには、必ずこの社に参り海上安全を祈願するという。海をなりの舞台としてきた漁民。

ながしま弁で遊んでみたら?

連載:長島弁かるた 第1回<あ>



あばばいこ
しころあたま
一手をかざす

長島弁解説

まがしこ
とを「あばばい」といいます。暗いところから急に外へ出た時やギリギリ光ったものをみてしまったときなどに「あばばいよ」とか「あばばい」といいます。

その他の<あ>を使う長島弁			
長島弁	意味	長島弁	意味
アイサ	間(あいだ)	アプリコ	焼き網
アイテクル	あきてくる	アンキスル	安心する
アガイニ	あのように	アワテガミ	慌て者
アタタイ	温かい	アンニヤン	お兄さん

昔ながらの漁法・漁具 沖サワラの突きん棒



紀伊長島沖のサバル島周辺は広い範囲が瀬になつているため、この海域でサワラの姿を模した「カタ」を水中で引くと沖サワラや時にはカジキが集まってくる。それを狙って鉞を投げる。鉞の柄は、樫の木で長さは二ひる半、柄の先端には60cmの金属製の三ツ又の槍が取付けられている。槍の先端には、「チョッキリ」をかぶせる。チョッキリのくびれた部分に紐を

結わえ、その紐を一本により合わせ二百〜三百間ある「つっきやなわ」につなげる。安定させるように鉞の元に結んだ紐に通し軽く縛る。命中するとチョッキリは、柄から離れ紐が延びる仕組み。チョッキリは、魚体にささると横になり抜け落ちない。魚が弱ったところで縄をたぐって捕る。

現在も10人ほどの漁師が二百年前から続くこの勇壮な突き(ん)棒漁法を引き継ぐ。※鉞の柄は、現在では主にステンレスやアルミのものが使われている。※一ひるは、両腕を広げた長さで身長と同じぐらい。参考:三重県文化財調査報告書第8集「熊野灘沿岸漁業習俗調査報告書」

つぎん棒のモリ

第1回 魚まち風もんじゃき 味自慢

魚まちに残る昔ながらの「味」

「もんじゃ焼き」と言えば、思い出されるのが関東で食べられている、ドロドロした物を思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。

ここ、魚まちで昔から言われる「もんじゃ焼き」はいつも変わった物です。簡単に言えば、関西風お好み焼きの「具」が無く、しょうゆ味というのが「魚まち風もんじゃき」。

とにかく、薄くてファーストフード感覚で食べられる気軽な食べ物です。

■用意するもの

- 小麦粉、水、長ネギ、鰹節削り粉、紅しょうが、天鰯
- …全とお好みの量を用意。(お好みで「桜えび」)
- 油…少々 ・しょうゆ…適量
- ホットプレート(フライパンでも可)
- お好み焼きヘラ(またはフライ返し)

■調理方法

- 具材を用意
ボールなどに小麦粉と水を加え、混ぜ合わせます。やわらかさも好みですが、大体トロツとしたソース程度に伸ばしてください。長ネギは小口切りにして置きます。
- 焼きに入る
温めたホットプレートに油を少々落とし、先ほど用意した水溶き小麦粉を約30cm程度に伸ばします。その上から鰹節削り粉、長ネギ、紅しょうが、天鰯をのせ、またその上から水溶き小麦粉をかける。
- ひっくり返して、完成まであと少し
全ての工程が終わったら、30cm程度に伸ばした水溶き小麦粉の端を見て、白く焼きあがってくれば、ひっくり返して表面を焼く。表面に焦げ目が付いたらもう一度、返しなおしてしょうゆを塗れば完成。

この「魚まち風もんじゃき」は昔、魚まちの駄菓子屋さんやお好み焼き屋さんで、どこでも食べることが出来ましたが、現在は数が少なくなり昔ながらの味を楽しめる場所が無くなってきました。

昔は駄菓子屋さんなどで焼いてもらった、もんじゃ焼きを新聞紙に包んで食べ、その新聞紙に張り付いた、もんじゃ焼きを茹めるようにして食べていたという話も聞きます。それだけ身近で簡単に食べられる食材として愛された一品です。

歩観会の活動報告

★西長島まちづくり景観交流会

近畿大学教授・久隆浩氏を講師に迎え、会員と長島地区を中心とする地域住民が、実際に西長島かいわいを歩いて景観や町並みづくりについて一緒に考えた。(平成17年9月)

★魚町(西長島)地区に62カ所、陶板製・町名表示板(まんぼう陶板)を設置。

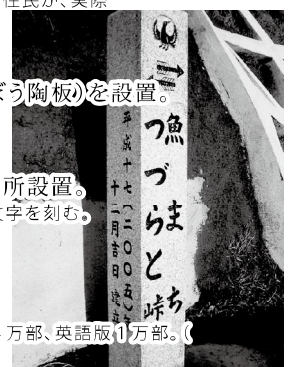
町名は漢字・ローマ字併記で、数字はマップの記載番号と連動。(平成17年10月24日〜平成18年3月10日)

★石柱の道標をツツラト峠、荷坂峠にそれぞれ4ヶ所、計8カ所設置。

高さ130センチの御影石に矢印と「魚町」「ツツラト峠(にぎか峠)」の文字を刻む。また、上部には伝説のヤタガラスが浮き彫りにされている。(平成17年12月23日)

★まち歩きマップの作成。

西長島地区のオリジナル町歩きマップ(魚まちマップ)を作成。日本語版4万部、英語版1万部。(平成18年4月完成)



古道魚まち歩観会(会長 中井 孝佳)

東紀州地域交流空間整備事業の一環で組織されたグループ。

「熊野古道のロマン」と「漁師町の温もり」とのふれあいがもたらすやすらぎの交流空間作りをテーマに、行政だけにたよらない住民主体のまちづくりを目指す。現在モニターツアーの企画やマップづくり、交流拠点づくりや休憩所の設置を進めている。

(紀伊長島町商工会・熊野古道語り部・紀伊長島ふるさと懇話会・ツツラト峠を守る会・ギョルメ舎フーズ(株)・水産加工業協同組合・紀伊長島町国際交流協会・三重県建設業協会の各代表、自治会、これまで街づくりに取り組んできた方々、まちづくりに興味のある一般住民で組織。アドバイザー:小倉肇、同 北村博司)